

令和4年度 県立みなみのかぜ支援学校 学校評価報告書

令和5年2月22日

1 学校経営ビジョン

ノーマライゼーションの理念に基づき、全ての教職員が鋭い人権感覚をもち、一人一人の児童生徒に対して専門的な教育を充実させ、将来の自立や社会参加の基礎となる力を育てることで、保護者や地域から信頼され、笑顔あふれる学校を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 自ら選択し主体的に生きることのできる児童生徒の育成
- (2) 可能な手段で自分の意思を示すことのできる児童生徒の育成
- (3) 防災体制の整備
- (4) 笑顔あふれる学校
- (5) 子どもが変わる確かな指導

3 学校関係者評価の視点

・自己評価項目や指標等の妥当性・自己評価結果の妥当性・成果と改善策の設定の妥当性

4 評価基準

A：大変良い B：良い C：努力が必要 D：改善が必要

5 評価内容（PDCA サイクルに基づく）

- (1) 本年度の重点目標を踏まえた具体的取組事項の設定【Plan（計画）】
- (2) 学校教育目標に基づいた教育活動の実践【Do（実行）】
- (3) 学校職員によるアンケート及び保護者アンケートに基づく評価【Check（測定・評価）】※
- (4) 次年度に向けた具体的改善策の提案【Action（対策・改善）】

※アンケート実施機関 学校職員：令和5年1月23日～2月3日（回答数117名）

保護者：令和5年1月20日～2月1日（回答数139名）

目標 I チャイルドファーストを柱とした教育活動

(1) 具体的取組事項【P】

- ①行事や授業参観を通して、児童生徒の自主性を尊重し、選択場面を設定した教育活動を推進する。
- ②障がいに関する専門的研修や人権教育研修等を通して、正しい障がい観の育成に努める。
- ③各種スポーツ大会やコンクール等への積極的参加を推進し、発表や自己表現の場の設定に努める。

(2) 学校教育目標に基づいた教育活動の実践【D】

①新型コロナウイルス感染防止対策についての基準を策定し、一定の条件の基、合同学習や校外学習などの教育活動を再開することができた。

運動会や虹色祭については、学部別の開催であったが、コロナ過以前に近い形で実施することができた。保護者の参観についても、開催時の感染状況等を鑑みながら、各家庭1～2名程度の参観を再開できた。

修学旅行については、宮崎県内での実施であったが、全ての学部において実施することができた。

②障がいのある児童生徒へのICT機器の活用について、校内研修で取り組むとともに、研修センターからの講師派遣による研修会を実施することができた。タブレット端末を使った具体的実践例についても、職員間での共有がなされている。

本年度は小学部職員が宮崎市主催の人権同和研修に参加し、人権意識を高揚させることができた。

③スポーツ面では、県高校総体へ9名の生徒が参加した。障がい者スポーツ大会にも中学部3名、高等部14名の生徒が参加し、高等部2名が県代表として、全国障がい者スポーツ大会に選出された。

文化・芸術面では、高等学校総合文化祭のオープニングに高等部2，3年生51名が参加した。また、例年開催しているなないろ作品展を本年度も宮交シティで開催し、小中高全ての学部の作品を展示することができた。宮崎市主催「Furoshiki デザインコンテスト」においては、高等部2年生徒が最優秀賞を受賞した。

(3) 学校による自己評価【C】

B

(4) 改善策【A】

①新型コロナウイルスの5類引き下げに伴い、学校でのマスク着用や、学校行事等の開催基準についても新たな見直しが必要となる。今後も児童生徒の安全を確保した上で、体験活動を中心とした多様な教育活動に取り組みたい。

②ICTや自立活動の考え方についての研修が今後も必要である。

③各種大会への出場機会を多く確保し、児童生徒の自己表現の場を多く設定していく。

(5) 学校関係者による評価

B

(6) 具体的意見

- ・コロナ過でも、積極的にいろんな学習を取り入れており、教育活動が守られている。障がい者の場合、障がいのある人だけのイベントに参加しがちであるが、外に出て表現の場を確保できている。
- ・コロナ過の中、マスクの着用や基準が変わったが、学校の判断基準について確立している。
- ・専門的な研修については、私たちも障がいについての専門的な研修をどのように深めるかが課題である。
- ・子どもたちの活動を保障しているところに感謝をしている。ICT機器は本人がどこまで理解できているかのフィードバックが欲しい。様々な作品展については、よく参加されている。
- ・運動会で全ての保護者が見られなかった。支援学校以外では参加できていたところもあり、残念だった。
- ・運動会は、5月下旬で一番コロナが多い時期であり、1週間ずらすとよかったのでは。ICT活用が進み、iPadで文字入力ができるようになり、良かったと思う。今後も続けてほしい。
- ・チャイルドファーストを柱とした活動ができたのは良かったのではないかと。各種大会への参加も十分にできている。ICTは導入時期であるが、活用がなされている。感心した。

目標Ⅱ 防災体制の整備

(1) 具体的取組事項【P】

- ① 実際場面に応じた、避難訓練や緊急時対応訓練を計画・実施する。
- ② 災害時の保護者への引き渡し訓練を実施する。
- ③ 防災袋や備蓄品の整備を行う。
- ④ 福祉避難所に関する研修やマニュアルの作成を通じて、福祉避難所に関する理解を深める。

(2) 学校教育目標に基づいた教育活動の実践【D】

- ① 年間3回?の避難訓練を実施した。1月の地震を想定した避難訓練では、避難経路が塞がれ、突発的な判断を要する訓練も実施した。事後指導では毎回、校長よりプレゼンテーションによる振り返りが行われた、リモートで実施され、視覚的に分かりやすいと好評であった。
- ② 引き渡し訓練については、5月の6施設合同防災訓練時に実施した。平日の実施ということもあり、保護者の参加率については課題が残った。(本年度参加保護者68名)
- ③ 防災袋については、学期始めと学期終わりに各家庭より準備することができた。また、PTA予算でも新たに備蓄品を購入することができた。
- ④ マニュアルについては、昨年度作成した物を再点検することができた。また、夏季休業中に福祉避難所に関する研修会を実施した。協定福祉避難所と指定福祉避難所についての理解を深めることができた。

(3) 学校による自己評価【C】

B

(4) 改善策【A】

- ① 放送設備が使えない場合の情報伝達手段について、今後も方策を探っていく。
- ② 引き渡し訓練の意義と参加へのお願いについて、PTA総会時に保護者に訴える等の手段を考えていく。
- ③ これまでに購入した備蓄品の中には、賞味期限を迎え、処分が必要なものもある。現在、事務室が在庫管理を行っているが、PTA活動の一環として、定期的な在庫管理ができないか提案していく必要がある。

(5) 学校関係者による評価

B

(6) 具体的意見

- ・ 引き渡し訓練は、合同での実施の意味が不透明になっている。どうせやるのなら、もう少し危機感を持って臨みたい。PTA 専門部の役割の見直しが行われれば良いと思う。マニュアルは保護者向けのものがあるとわかりやすい。
- ・ 引き渡し訓練は、以前に比べると、最近はスムーズだが、人が減っているためではないか。当日、親が休みをとって迎えに行く以外のパターンも必要かもしれない。本来は取らないパターンである。備品の種類について具体的にわかると良い。
- ・ 引き渡し訓練は、保護者の意識低下があるのか、PTA でも防災についての取り組みを行う必要がある。年間で立てた計画実施できている。マニュアルの作成もなされている。
- ・ 防災訓練や引き渡し訓練のマンネリ化が考えられる。一斉メールでの対応は十分に行われている。
- ・ 引き渡し訓練については、実施目的を再確認すべきである。備蓄内容については、迎えに来られない時の宿泊まで想定しているのか。保存食の食形態が本人に合っているかの確認が必要である。保存食はコストが高いため、インスタント食品をローリングストックする等の取り組みも考えられる。
- ・ 災害対策は未知のことであり、分からない事に対してよく取り組んでいる。

目標Ⅲ 学校経営ビジョンの周知・徹底と笑顔あふれる学校

(1) 具体的取組事項【P】

- ①常に笑顔で児童生徒や保護者、職員とのあいさつ励行に努める。
- ②「できた!」と感じさせる授業作りを行う。
- ③課題に対し、チームで関わり、チームで解決を図る。
- ④教育公務員としてコンプライアンス遵守を意識して行動する。

(2) 学校教育目標に基づいた教育活動の実践【D】

- ①職員アンケートによるプラス項目は93%と高い数値であり、日常的にあいさつの励行に努めることができた。朝の送迎時の保護者からの引き継ぎ時も、笑顔で対応ができた。
- ②職員アンケートによるプラス項目は91%と高い数値であり、日常的に子供の良い点を認める教育活動を実践することができた。教室内外の作品掲示も効果的に行われ、児童生徒の学習状況を発表する場となった。
- ③職員アンケートによるプラス項目は91%と高い数値であり、役割を分担しながら、チームで課題解決を図ることができた。毎朝の学部職朝が、情報交換のばとして機能している。
- ④コンプライアンスに関する研修を2回実施し、冬の研修会では、次年度のコンプライアンス標語について全職員で考えた。次年度より「みな*コン標語」として、月毎に職員の目に止まりやすい場所に掲示する予定である。

(3) 学校による自己評価【C】

B

(4) 改善策【A】

- ①保護者アンケートでは、89.9%の数値であった。高い評価を得ている反面、言葉によるあいさつが難しい児童生徒の保護者からの戸惑いの意見も伺える。頷く、笑顔を返す、ハイタッチをする等、様々な表現方法について、更に認めていく必要がある。
- ②本校に在籍する2名の指導教諭の実践について、今後も電子掲示板を使って広く周知していく。
- ③コロナ過におけるトップダウンの決断から、「どのようにしたらできるのか?」という納得解を考えるチームへの変容の機運を醸成する。
- ④コンプライアンス遵守のための高い規範意識の育成と同時に、肯定的に取り組む雰囲気づくりを進める。

(5) 学校関係者による評価

B

(6) 具体的意見

- ・コンプラ標語による取組がよい。コンプライアンスに対する職員の意識が高まっている証拠である。
- ・利用者も職員も、共に笑顔が出る声かけ、支援方法で取り組んできた。企業では、CS満足度が問われる時代である。目配り、気配り、心配り+笑顔配りで取り組んできた。
- ・コンプラ意識の高さを感じる。校内の作品についても、見ていて楽しさを感じる。保護者アンケートの集約の中には、意見が分かれているところもあるようである。
- ・保護者側の障がい理解が更に必要であると感じる。子どもに対するフィードバックが大切である。これで良いと言う声かけをこれからも行っていただきたい。
- ・朝の送迎時のやりとりでは、先生方それぞれのやり方があると感じている。多くの先生からの声をかけていただいてありがたい。先生達同士の情報交換も行われていると感じる。コンプライアンスに対する意識も高い。居心地の良い学校である。
- ・発語のない子に対しても挨拶を意識付けると言う点で助かっている。
- ・自己評価に基づき、改善策をしっかりと作成されている。本日の意見もぜひ反映してほしい。

目標Ⅲ IV子どもが変わる確かな指導

(1) 具体的取組事項【P】

- ①児童生徒一人一人の実態とニーズに応じた目標設定を目指す。
- ②児童生徒のわずかな成長にも気づき共に喜ぶことで認める指導を行う。
- ③関係機関と情報を共有するとともに、連携を図る。

(2) 学校教育目標に基づいた教育活動の実践【D】

- ①個別面談期間を設定し、一人一人の教育的ニーズを十分に把握した上で、個別の指導計画や教育支援計画の作成に役立てることができた。
- ②職員アンケートによるプラス項目は95%と高い数値であり、児童生徒の良さを認める指導が定着している。校内での問題行動も少なく、生徒指導上の大きな課題も少ない。落ち着いて学習に望む姿がみられる。
- ③ひまわり学園や青島学園とは、日常的に情報交換を行うことで、入所児童生徒の状況について共通理解することができた。必要に応じて関係機関を交えたケース会を開催し、情報の共有を行った。

(3) 学校による自己評価【C】

B

(4) 改善策【A】

- ①現在、個別の教育支援計画の電子化に向け、校内システムの構築に取り組んでいる。電子化により職員間での情報共有が十分に図れるよう、今後更なる改善が必要である。
- ②現在の特別支援教育の主流はPBS（ポジティブな行動支援）である。今後も、日常の中で「できていること」「がんばっていること」に着目して支援する方法が定着するようにしていく。
- ③ひまわり学園には本校の入所児童生徒も多く、問題が起きてからの情報交換では、学校、学園双方とも全職員が共通理解するまでに時間を要することがある。次年度以降は定期的な情報交換の会を設定し、気になる児童生徒の情報について早めに共通理解していきたい。

(5) 学校関係者による評価

B

(6) 具体的意見

- ・通知表の形式が変わった。少し簡素化されていた。もう少し内容が欲しかった。一人一人に合った指導内容の工夫はされている。保護者と先生との意見交換も行われていると思う。
- ・通知表の簡素化で寂しかったが、先生方の働き方を考えると仕方がない面もある。聞こえに課題がある子どもに対するアプローチや、手話が得意な先生が増えると良い。
- ・電子化によって、指導の取り組みが共有されることが期待される。例年、引き継いでほしいことが学年が変わると伝わらないことがある。本人の良いところを共有してほしい。情報の共有はポジティブな内容を中心に、いろいろな面で行ってほしい。
- ・情報交換及び共有でいろいろな取り組みがなされている。
- ・保護者との面談を通して、子供の笑顔が増える支援をしてほしい。挨拶や絵カード、関係機関との連携、職場の人間関係、コミュニケーション、情報共有等々、1つのゴールに向かって取り組んでほしい。
- ・「子どもが変わる指導とは？」25、6年前に採用試験で聞かれたテーマ。ずっと変わらないと感じる。中学部の保護者の評価が低いが、学校でやっていることが保護者に伝わっていないのではないか。保護者とのコミュニケーションが上手くはかかれていないのではないか。情報発信が少ないのではないか。子供の様子を伝えることによって、学校と保護者の意見交換がなされる。人と人とのつながりが大切である。
- ・面談や個別の指導計画を通じて、保護者との連携につなげることが大切である。